顎林叢句集 秋

へ 5
4130
3

門へ到
號 4130
巻 4－3

俳諧正風孝林發句集

秋之部目錄

文月一　立秋一　殘暑一　秋風二
七夕二　天の川三　露三　稲妻三
霧四　灯籠四　踊五　迎火五
魂祭五　生身玉六　掛待六　花火六
蘭七　桔梗七　木槿七　萩八
草花八　一葉九　柳葉九　乾河豚九
角力十　初嵐十　扇置十　早稲十
糸瓜十一　蜻蛉十一　瓢十二　蜩十二

蜻蛉 十二　蟲 十三　虫 十三　鬼灯 十三
芭蕉 十四　萩 十四　美蓉 十四　葉 十五
紫苑 十五　鶏頭 十五　葛 十六　苅萱 十六
野菊 十六　夢殊沙花 十七　藤袴 十七　女郎花 十七
芒 十七　秋海棠 十八　花野 十八　木犀 十八
葉月 十九　八朔 十九　初月 十九　三日月 二十
待宵月 二十　月 二十　名月 廿一　既望 廿二
駒牽 廿二　放生會 廿二　砧 廿三　紫山子 廿三
鳴子 廿三　晩稲 廿四　稲刈 廿四　焼米 廿四
新酒 廿四　落水 廿五　鹿 廿五　鳩吹 廿五
芋 廿六　牛房引 廿六　菊 廿六　菊宴 廿六　柿 廿七
栗 廿七　茸 廿七　渡鳥 廿八　雁 廿八
鴨 廿九　帰燕 廿九　初鷹 廿九　鵜 三十
砧 三十　秋惜 三十　初汐 三十一　長夜 三十一
漸寒 三十一　夜寒 三十一　肌寒 三十二　鹽 三十二
初鮭 三十三　小鰯引 三十三　落鮎 三十三　若菜 三十四
長月 三十四　九日小袖 三十四　后雛 三十五　孫乃雲 三十五
菜 三十五　猫 三十五　紅葉 三十六　芦穂 三十六
末枯 三十六　紅葉 三十七　蔦 三十七　野分 三十七
露霜 三十八　新綿 三十八　蕎麦 三十八　蔦 三十九
　　蔦紅葉 三十九

樫 枠 三十九　後の月 三十九　同 召 四十　外 市 四十
個代打 四十　木綿 州 四十　藥 垢 四十　新 蓼 蓼 四十
尾越 鴨 四十一　霧 時 雨 四十一　冬 待 四十一　行 秋 四十一
神 送 四十二

京都帝國大學圖書之印

俳諧四風新林貴句集

為於庵由於撰

文月

文月や竹のうきゆたかそうな　松竹
文月や行ふ所も雲ばかり　蓮二
たなくゆるる文月の邪　免年
身は新を視る文月の月光　眉青
文月や水のもくれる城貴の河　車松
吹をまつ蓼の芽文月哉　功甫
起れば文月の端居哉　波路
始る月やもてゆる書　抱叔

立秋

名月や畳の上に寝て寒し　芭蕉

物の音や雲の中なる鹿の聲　祖徠

よりそふ目うつす秋立門の蔭　清見

秋うつや沙未ふまぬ庭の苔　夜半

たつ秋や月の涼しき柳の雪　白起

さに月をさして秋立朝霧　三四

立秋我出て見る夢の夕べ　松晩

秋さらぬ夢やいつまで暑さ　光年

暑さ新のさして落ちる残暑　蓮二

面白や物の自然の秋暑　南汀

残暑

河内くさ残暑の月や川の上　東洲

水の文や落ちおつる残暑　涼苑

暑しとて秋を見そめる草の色　石楳

旅籠屋に泊りて残暑の蚊　可蕭

見るの外目ふさぐ残暑　瓦村

云無く云ふく残暑　一線

面白物の言ふ八月残暑　亮丈

埋もれ井の中の残暑　松竹

藤棚の下に暑さ忘れて　於林

谷川の水を汲みて残暑　老里

昔の人思ふ人知る秋残暑　東洲

秋風

七夕

[illegible] 松竹
[illegible] 拙誠
[illegible] 云山
[illegible] 夏蕉
[illegible] 楊柳
[illegible] 龍友
[illegible] 野守
[illegible] 柳女
[illegible] 芝外
[illegible] 楊鱗
[illegible] 陳弓

天の川

七夕や指人[illegible]の[illegible]る一水
七夕や[illegible]三沼
[illegible]や[illegible]龍荘
[illegible]や遊女の[illegible]秋所
[illegible]其風
[illegible]抱叔
[illegible]杉晃
[illegible]川
止[illegible]や[illegible]天の川　驗市
[illegible]川　柳雨
八月の[illegible]や[illegible]川　義外
[illegible]川[illegible]川　由樊

霧

稲妻

おく中ゝ清きへ霧の奥にひく　丁知
霧の音や雲にあさ〻ハ思ハれ　閑雅
わらはの声や一ゆゑを鶏る霧　切甫
明る雲や河ゆ掛ふ霧一面　立羽
白雲や正覚ものに寄る月　波路
雲ゆ霧ゆ成業や州の霧　天真
一言を聞と明るき雲も霧ハむ　抱叔
こゝろ世ゝ雲ハ霧ハ一明の種　甫川
雲霧さへ寄ぬ孫ゆ霧ハ雲霞　一成
いかつまや月ゆ消て見る霧　松竹
稲妻や霧ゆ消て見る霧　春室

霧

稲妻や掃のこゝ〻ひ中ゝ松　亀友
稲妻を百河ゆ霧の雲ゝ代　對甫
笑ゆ雲ゆ霧ゆ雲ゆ月一雲ゆ　翠蕉
いかゆ雲や鶏一雲を分ける村　三沼
責所ゝ稲妻ゆ霧ゆ月〻ゆ　亀文
雲ゝ形や急ゆ雲ゆ水ゆく　反村
雲の色の雲ゆ月ゆ霧の明ゆ　象旅
法堂の雲ゝ雲ゆ霧ゆ雲ゆ　困雅
知雲や川ゝ雲ゆ月ゆ　亀年
ゆれゆて雲ゆ雲ゆ霧の雲一　一孫
ゆく霧や八重の戸口ゆく雲　亀文

炬燵

炬燵や屋敷を立て男の家　杉暁
当番にそなへて座の炬燵哉　對甫
外の炬のうつりてそなへよ炬燵哉　松琳
炬燵やいつ義理の炬　松琳
又りの炬日くれとる炬燵哉　清晃
すこし使のひそり炬の炬燵哉　言山
燈籠や屋敷くまうけ炬燵　松什
屋敷を立て人の炬燵きく雁　瓦村
たくさん炬燵一番の炬燵哉　杉暁
清晃炬燵の炬燵哉　杉暁
炬燵哉ひと筆一ヶ表表　由契

踊

踊の時て美しきりゆく踊り哉　貴流
おすゝ手の中にそなる踊哉　三四
古くさい踊へ飛たるをとり哉　亀友
曲をまつ[illegible]踊う手　一瑞
天一樽を[illegible]の末ふ[illegible]平盆踊　きく雁
土産ゐと[illegible]踊う手　守一
乃至人のなくて[illegible]也青
[illegible]物の書[illegible]なのゆく青の踊哉　瓦村
古板すてうて[illegible]踊哉　佳峰
[illegible]に袖をうてかゝ文句　杉暁
近方や門へ出[illegible]ハ面れ屋む　涼岳

迎火

亀祭

[illegible] 稔市
[illegible] 天真
[illegible] 眠月
[illegible] 瑞弓
[illegible] 李山
[illegible] 三沼
[illegible] 卜早
[illegible] 家旅
[illegible] 鳥吟
[illegible] 切南
[illegible] 加沢

実成玉

[illegible] 白記
[illegible] 清南
[illegible] 花外
[illegible] 祐之
[illegible] 嘉来
[illegible] 切南
[illegible] 祖邨
[illegible] 完嶺
[illegible] 老年
[illegible] 清南
[illegible] 涼花

摂待

花火

抱叔
閑雅
四子
三四
完嶺
稔市
茅雅
抱林
言山
屯風
内楚

別新

春阿
其翠
柳女
春室
翠蓬
閑雅
三沿
茅吾
凍色
風村
文林

桔梗

木槿

幸牛蒡の高き咲くや弾弓
朝顔や垣を多くの人の通り　其風
咲数の志れて数や朝の桔梗　免年
蕣花りうくなるや桔梗の咲ぬ　抱叔
花よ年八蕾を九月の桔梗　多吹
蕣の志れぬ蕾よりひて桔梗　可蕭
手を拭て見るのうれひく桔梗　云山
花咲て蕣のうれる木槿哉　對甫
さりの姿を見ぬく木槿　樹石
朝顔や八木槿を枕ぬ　石橋
蕣よりのちて木槿の蕾の前　其風

萩

草花

ゆくまてハ初り出の萩の木槿　加人
雨をまつ里人まつ萩の花　松涙
折ふせ木槿さいて蕾の花外　花外
里人を高根に見る萩の花　一具
山萩や朝もう雨のふる雨　眠月
人の待く秋を七夕の萩　席角
萩のうく咲ぬ秋の雨　龍友
雨秋の花ひるを蕾ふりの　知遠
ふりの中や小萩の秋の秋の　言山
陽うまるる秋七夕の花　蕉古
まく蕾乃風のまるる一茎の花　怪蕉

芝蘭や四方の面影うつり　波路
ふるゝ年秋を重ねや竹の花　雪山
花いろ〳〵咲ます春のそよかぜ　冠年
春の雨や人の通る川のほとり　一芝
たゝらおく方のひとやの草の色　葉雨
春のうち鶯なくや草の色　深花
日よ咲く月を調ぶや竹の花　就来
詠めうれしき春の色　無友
村雨や赤き実の中のさゝの色　對南
まゝ仏に春を目覚ます草の花　乙良
詠ぬ春の花をハのひて咲の小笠　由楚

一葉

桐の葉やそよ一めをうつ人一義なつ　抱叔
義なつ人一ゆ出ぬ乳　印甫
いすゝ義なつ義なつ桐の葉　南汀
一義なつ義なつ桐の葉　可蕭
赤乳ぶ一ゆ出ぬ桐の葉　嬉翁
桐の葉一義なつ義なつ義二義なつ義　四子
風ぶ義なつ桐の葉や義なつ義　花外
桐の葉義なつ義なつ義八月なつ義　由楚
桐よ葉の陰や柳の若日より　梅峨
義なつ義なつ義なつ義　梅苑
なつ柳うつゝ義なつ義　梅苑
嘆山

[illegible]

読田舞

[illegible]

角力

[illegible]

初冠

[illegible]

扇賣

[illegible] 樹 [illegible] 目 [illegible] 扇 [illegible] 花 [illegible] 尾村
花 [illegible] 折 [illegible] 山 [illegible]
[illegible] 山 [illegible] 對南
[illegible] 流 [illegible] 蹴弓
[illegible] 扇 [illegible] 卯南
[illegible] 扇 [illegible] 三篠
[illegible] 扇 [illegible] 花外
[illegible] 秋 [illegible] 抱叔
[illegible] 月 [illegible] 僊月
[illegible] 山 [illegible] 山歌
[illegible] 李山

不稱　樹石

[illegible] 人 [illegible] 稱 [illegible] 樹
[illegible] 高 [illegible] 此
[illegible] 稱 [illegible] 一
[illegible] 稱 [illegible] 蒙香
[illegible] 茶古
[illegible] 清南
[illegible] 外
[illegible] 稱
[illegible] 花
[illegible] 一水
[illegible] 文

糸瓜

[illegible] 糸瓜
[illegible] 外
[illegible] 稱
[illegible] 花
[illegible] 一水
[illegible] 文

懶惰

未生ノ前ニ生ヲ受ケテ實ノ如ク雀歩
スル人ノ行テ生命ノ怪報ヲ受ル由聚
霧ノ如キ中ニ立ハ懶惰按室
ノ如ク秋ノ雲ノ如ク消ヤスク一具
下駄ヲ履ク所ノ帝国ヲ懶惰山獣
面ヲ履ク所ノ帝国ヲ懶惰ノ如ク三沉
蓬ノ如ク消ヤスク沈南
ノ如ク消ヤスク懶惰原花
ヲ見ル人ノ如ク消ヤスク懶惰犯奴
ヲ見ル人ノ如ク消ヤスク懶惰犯奴
懶惰ヲ見ル人ノ如ク消ヤスク玉蕾

蕾

ノ如ク日ノ未部屋ニ入テ懶惰相古
ノ如ク帰ル井ノ如ク屋表孫鬼丈
所ノ消ヤスク雪山
ヒ家ノ人ノ如ク消ヤスク懶惰卜早
懶惰ヲ見ル人ノ如ク消ヤスク懶惰卜早
乗物ノ如ク消ヤスク帰ヤスク四碧
干柿ノ中ニ入ル如ク消ヤスク蓮二
中ニ入ル如ク消ヤスク不雅
蕾ノ如ク来テ消ヤスク花蕾葉蕾
友ノ花蕾ヲ見ル如ク消ヤスク行之
ヲ見ル人ノ如ク消ヤスク夢遊
ヒ家ノ人ノ如ク消ヤスク亀皮

蜩

風のさて飛ふ花ハ秋のこゑ　未丈
ちかうきや川田の林をとふ蜩　宛年
根の小ちに鳴あきし露の中　卜ま
見しの中むつかし露の夕へ哉　抱叔
魚にまねす江に蜩のひゝきかな　鵞友
蜩や老せぬ人の鐘をきかん　免年
なかしや鳴をさきに緒に流く　花外

蜻蛉

蜻蛉の羽音せはしき夕かな　象雄
雲の中月の光の□や赤蜻蛉　清甫
立居まへ秋のひかり蜻蛉哉　抱叔
蜻蛉乃むれて行くや城のうへ　、、

蟋蟀

蜻蛉や風に乗て□のうら　序角
人の見えぬ所に来る蜻蛉かな　月夕
蜂上る河の流れ夜の蟋蟀　玉蓉
世の中をあらの跡之蟋蟀　山鶴
なかきを合せ河ひの声蟋蟀　清甫
蟋蟀の声や夜を明け方　涼花
帰る夜て帰る夜の蟋蟀　、、
麻の葉に鳴や鳴夜の蟋蟀　鵞丈
蟋蟀の風の音て鳴夜かな　祖卿
かの声を露に鳴や虫の声　抱叔

虫

面白き鳴声虫の音の夜かな　史増

鬼灯

[illegible]

芭蕉

[illegible]

萩

[illegible]

芙蓉

手折て去る袖の移り香の
萩乃音や吹ちらす秋の花　三四
いろくさ盛りの日々ぬ萩の露　花外
花ゆゑの物の哀を知る人
風吹る秋の野辺の露乃玉　清花
吹敷をたゝみてなをの夢　山兄
更ぬ夜の玉ゆらぬ夢　花外
蓼の花ぬれぬ青の芙蓉　清甫
月の玉一芙蓉も蓼の中　抱叔
降たゝて庭の面も芙蓉咲　閑雅
朝ゆ吹ぬ蓼ゆ高ぬ蓼の中　山歌

蓼

二株と蓼の人ゝ高芙蓉　卜甲
折ゝ手を指添るあの人　山紙
蓼の面や懸る蓼の花　曙山
逢ぬ中ゝ吹の人ゝ蓼の花　深巧
庭ゝ花の蓼ゝ蘭の花　抱叔
蘭の香や石垣ゝ蘭の花　鶴月
面影ゝ蓼や初の人蓼白ゝ　眉青
庭下ゝ秋添て蓼ゝ人の蓼　亀友
蓼の香や蓼ゝ人ゝ人ゝ蓼　祖郊
陰庭ゝ蓼ゝ蓼ゝ蓼の蓼花　図為
蓼ゝ紙ゝ蓼ゝ白ゝ蓼の蓼花　反村

紫苑

鶏頭

[illegible] 杉晩
[illegible] 度柳
[illegible] 東外
[illegible] 玉英
[illegible] 甫川
[illegible] 涼花
[illegible] 明弓
[illegible] 亀友
[illegible] 所夢
[illegible] 幕里
[illegible] 波鶴

菊

[illegible] 杉晩
[illegible] 玉雄
[illegible] 豊里
[illegible] 天真
[illegible] 梅賀
[illegible] 隊弓
[illegible] 三四
[illegible] 五新
[illegible] 抱叔
[illegible] 晃外
[illegible] 清真

荊蕎

曙艸

[illegible]

夢殊沙花

[illegible]

藤稿

[illegible]

女郎花

芒

秋海棠

芭蕉

木犀

[illegible]

木犀や [illegible] 四子

[illegible] 遠て帰る [illegible]

[illegible] 村の [illegible] 木文

[illegible] 彌彦

川越さ [illegible] 波路

木犀の [illegible] 由蹊

木犀や [illegible] 象堂

木犀や [illegible] 對南

木犀や [illegible] 抱叔

木犀ハ [illegible] 三四

拙速

葉月

木犀や [illegible] 井戸 曙山

[illegible] 木犀の [illegible] 由蹊

[illegible] 葉月 清南

[illegible] 葉月 柳賀

[illegible] 葉月 波路

[illegible] 葉月 [illegible]

[illegible] 葉月 山歌

[illegible] 葉月 [illegible]

[illegible] 葉月 白起

八朔の [illegible] 抱叔

八朔や [illegible] 山 [illegible]

八朔や鶏下来きる州の扇　拙誠
八月や其の色変へぬ草の花　一茶
八月や鳥の行方井の蓼　怜月
八朔や むかしを見つきし　百村
秋月や郭公なくや井の苔　蓬二
名月や波人たちて井の苔　抱叔
秋月やさくらの色の蓼の雫　素来
はつ月をまねきふ城はしら　珠弓
秋月や坂の出て見る海の末　雅
名月や名の想新や秋月和　立軒
名月や松新たなる色なる　竜友

初月

三日月

秋月や芋虫たちし草の露　豊里
八きりや法ちやや三日月　鹿安
畑人の目の留まるや秋月　蓼二
川原ちの景家のうしや三日の月　琴弓
名月や寄る波うて極へ出る　波鴻
舟つなぎ所ちらし川原屋そこの月　物賀
月や所ちて出ちう三日の月　夢遊
名月や日和そこなる雲一吉　稔市
三日月や入江そこの下明り　逸川
人を来て信濃八月和　抱新
信濃やしらなる雲晴ちり　青里

信濃月

月

猿さそ（？）や月待宵の子と海り　花外
まつ宵や（？）ふるさとの所つき　三餘
待宵や試みに出く此乃赤　龜丈
待よひの月待りやきびし猿　一頃
待宵や蛙へすの色る池の水　波路
まつよひや京にれて。その面　在安
芝原や我ゐる石に露と月　把叔
こうしと人の暗むや此乃月　雲山
拍子なる八重なる月の新　為古
月の桂ひとりわられ八又新　三四
ゐるものを月をこの夜て重の中　映月

名月

井の底に月の影見て明るき　田子
見てのみ名月の影て月の影　真望
明るきのひかりまつ今の月　為山
今の月鏡に月の影　俳意
老く日の月の影　風狂
新て新しき月の月　拙誠
見まくるまつ秋の月　文林
月のまつ月の月　把叔
名月見るおそうの有名　拙珠
名月や蟹に月の影　老里
名月や人の月の影　乙良

名月や海を渡りて来る雲の峠　杉什
名月や稲穂ばかりつゝる谷　為山
名月や蕎麦の花咲く淵の辺　意外
名月や三日月なる谷の宮　天真
名月や三日月なる谷の宮　能友
名月や郭公似て四人寄　梅嶺
名月や蕎麦の花咲く宵の雨　涼花
名月や寺札と新仏の部　蓼香
名月や塔の寺なる蕎の中　珠弓
名月や芋ほる風の裏山　四子
名月や蕎麦の花咲く裏の峠　杉曉

十六夜

名月や夜寒のあれ草の霧　一具
名月やうるめて行くよ物を見む　由蕎
萩の一のひらく中ばかりの月　花外
いかの子や船の上の月の下　蓼古
川つゝや山の上の月の下　一道
十六夜や高砂の松の岩の上　祐之
十六夜の長谷の月つゝまぬ　能遊
名月や山の月の月の月　完歌
山の月や山の月の月の月　及村
十六夜や高砂の松の岩の上　東洲
既望や高砂の松の岩の上

駒牽

駒ひきの森掬りや都入り　一㝡
駒牽やひとり老翁の何事か　瓦村
こゑもなし[illegible]　兆年
駒牽の峯位つ[illegible]　亀友
駒ひきと何方へ[illegible]　翠蕉
駒引や[illegible]　龍丈
[illegible]の[illegible]　由梭

放生會

乳母子[illegible]放生會　涼花
[illegible]放生會　蹴鶴
放されし[illegible]　一頑
[illegible]　抱叔

放生會すゝ[illegible]　翠蕉
[illegible]や放生[illegible]　田子
[illegible]　一丸

礒

山里[illegible]　禅居
昨の[illegible]　竹雄
雪の[illegible]　珠宵
[illegible]　六山
[illegible]　象雄
[illegible]　清亮
川[illegible]　梧暁
[illegible]　松竹

案山子　文叔

人の見つくを案山子の弱式　樹石

身にうの秋の出来一式　花外

竹や寒く立ちて寒鴉式　ト可

中ゝ鳴やを呼ぶ雨の声　由幾

かけさやそを中ゝ雨の声式　老里

引変のしかねて鳴の式　きく楼

鳴子

晩稲

晩稲刈　玉怪

晩稲の実今新米　東

晩稲の中ゝ花ある新米　三鉢

晩稲刈深花

晩稲刈　印南

晩稲刈ゝ田や横畦一ゝ式　清花

稲刈て参ゝ二ゝ式ゝ　曙山

稲州ヤ[illegible]花外
以[illegible]州ヤ鶴舞ヤ[illegible]新米
[illegible]稲の市にまきれて[illegible]総市
稲州の[illegible]ふ船うな 蕭川
州てる稲やうなる[illegible]て 元年
[illegible]き米の香あたのひとうる[illegible] 抱叔

焼米

焼米ヤ弟子[illegible]ゆく 竹夢
焼米の香ヤ小[illegible]の[illegible]嘯 亀文
ヤ米ヤ[illegible]ある 抱晩
[illegible]方の[illegible]て新酒[illegible] 一具
[illegible]ある香ヤ新酒の[illegible]人 清[illegible]

新酒

[illegible]の人[illegible]る新酒 [illegible]
[illegible]て[illegible]新酒[illegible] 抱舟
[illegible]新酒[illegible] 翠[illegible]
[illegible]る人[illegible]東[illegible]新酒[illegible] 三沼
[illegible]ヤ山四[illegible]水 [illegible]外
[illegible]ヤ[illegible]人の[illegible] 抱叔
[illegible]日[illegible]家[illegible]清[illegible]
[illegible]ヤ[illegible]水 拙誠
[illegible]車[illegible]ヤ[illegible] 三沼
[illegible]ヤ[illegible]て[illegible] [illegible]
[illegible]十[illegible]て[illegible]振 印者 総市

蕎水

[illegible]

鹿

鳩吹

萩すゝきなるや高根をひらく鳩の声　拙誠

華厳[illegible]の行る鶴之康の[illegible]　柱跡

行人をよひかへしけり萩の下風、

来く峰[illegible]鹿よりも鳩の聲　直女

麓峰や月[illegible]鐘[illegible]人[illegible]　三沼

岩茸やよそ[illegible]合て来りけり　素山

鳩吹やそれと[illegible]人のきゝく　花外

[illegible]や[illegible]の[illegible]　傑月

はる[illegible]や[illegible]も[illegible]鳩　三餘

鳩吹やいま[illegible]て[illegible]山の[illegible]　清甫

鳩吹の[illegible]をそゝるや薮の[illegible]　菱遊

茸

[illegible]や人の[illegible]のほ　乾丈

[illegible]の手[illegible]丸木橋　庭窓

鳩吹や[illegible]の風乃[illegible]　栄居

[illegible]の[illegible]茸の[illegible]　秋之

茸[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]　涼花

[illegible]茸[illegible]　錦子

[illegible]の[illegible]茸代　杉驊

下風[illegible]けりや茸の[illegible]　杉曉

[illegible]ある茸[illegible]　総甫

[illegible]の[illegible]て茸ハ[illegible]　祖鄉

宮寺[illegible]茸ハ作りけり　由斐

牛房引　　花外

蓮實丸　　涼花

柿　　閑雅

栗　　夏蹄

草

何ものとなく生て葉を指ひろげ花村
雨葉や木の陰の葉の葉の葉花外
おもしろ葉指ひつて葉一ぱい
木を葉の葉を葉小都八對面
時鳥の葉の葉の葉の葉の葉涼花
ひとつ人の名を四人蘭の郎一郎
ゆかしき花の山路や木の陰玉女
うつむき名なしの河内蘭の手撫蓋
草物や去来花一番の吹柳面
草物に時の者や青の蓋新孫丸
草や変りまして名のうるる三沼

渡り鳥

草物や世の中の物たり
石ばしる水の新らし蘭の花
鴨ひとつ名をいはり木の子
ひとつ花の山路の花蘭の
面白の面白や面白の面白
麻部の人や渡り鳥孫丸
摂津の人の人の人の人三沼
草の花の山路の山路の山路一
見えぬ梅の花の梅の梅の梅月
面白さの山路の山路の山路山歌
山路の道の道の道の道の道楊柳

雁

空に月を仰ぐ夕べ　直女
なつかしき島や秋の月　鐐月
雲の中や雁なき渡り　相古
幸ひ書よりつかうまつる　松什
初雁や指ふ手をさすさく　移晩
うつ雁や雲の末の暗の雁　以兄
なつかしき海辺の月の雁　抱叔
雁渡る空や翔るよりも　田子
世の中を秋の末の雁　石樵
立ち居なる音のつらや江の雁　苑外
音のつらね雲ふまるや月の雁　赤訓

鴫

おのづから音に淋しき夜の立　抱叔
鴫なくや月の光の暮るまで　春里
野に入りて夕の月かげ鴫の声　鳳村
柱杖ふりつつ鴫の立て鴫の声　南雄
松蔭の水みなぎりて鴫なくや　波路
古くより花咲き鴫の立　苑外
掬ぶてふ中の立て鴫の立　亀友
鴫の羽音に月の光の暮れ　南川
上げ潮を聞きて鴫の立つ音　涼色
立ち寄りて鴫の立つ音の聞　雅弓
降る時雨鴫の立海辺の村の雨　明美

帰燕

初鶯

[illegible] 蔡凡
[illegible] 山歌
[illegible] 由樊
[illegible] 一笑
[illegible] 東外
[illegible] 甫川
[illegible] 花外
[illegible] 波路
[illegible] 杉曉
[illegible] 三四
[illegible] 由樊

鶯

殘牧

[illegible] 象稽
[illegible]
[illegible] 柳西
[illegible] 花外
[illegible] 白此
[illegible] 龍友
[illegible] 蓁山
[illegible] 兎年
[illegible] 清兎
[illegible] 一芝
[illegible] 波路

秋懷

[illegible]

初汐

[illegible]

長夜

[illegible]

漸寒

長き夜を何とも見して秋寒し　先年

まだきさやまつ人恋しく懐手　烏明

折節の浮の夢さめて秋長し　蘿水

十三夜稲刈風の身にしみる　蹊鶯

尾花まじ芋葉の露に虫ぐらし　杉暁

漸寒や明て灯の消る枕もと　抱叔

漸寒やひとり住居の戸障子の音　菜舌

中々にそうわぬ獺子の三つ汁　一九

漸寒や十ばかりにも忘れし巻を尋く　瓦村

夜寒

門明しに遊び咲の帰り夜寒哉　嘯山

ありの上書頃なる香の夜寒哉　抱叔

肌寒

月影ま宿根芒むらく夜寒哉　菴友

かたそれ客のの立ちよる軒で夜寒　卜早

来る人に寒い夜な二夜寒哉　白起

新しき蒲鉾のひかるよ夜寒哉　某雅

年寄りは夜寒に起て去ひ寒さ　文叔

風なれ入る七寒に起てや夜寒哉　波鵄

消かゝる灯の火の入る夜寒哉　一旗

失せて芋ひ出た夜寒哉　完嵐

灰を出て夜寒も出て夜寒哉　丁知

己の新しき肌寒き　抱叔

肌寒や菊の花寝る茄子畑　亀遊

鱸

たゝ家一古の姿を残のこし　蓬二
はゝ母をうやまふ品つる樹しの高　清南
松ま居て旅人たゞ孤客　清見
たゝ家や旅苑の苦麦の秋　和以
人生人蘇て孤客おりひろ　花年
孤客や出船ふつる枝明珍　亀丈
釣竿そ暮うなせ老ゝ庵　雀岳
魚市ふおろそ元義新　天真
ひとりよ寄まけ寄る鱸り　波路
まこあ者ゆ鱸ふ釣り武　玉女
まこゝの志ゝ時り元氏釣新　清真

初鮭

小鰯哉

鮭釣柳の数をむすびけり　爰遊
鱸かて寄一軒風流松　亀友
魚ちうう白ひを清ふ郭ゝ　西蕉
初鮭や鰯つきけ中芝の上　松嶺
ふ鮭を白て寄ふ暮氏　深花
はゝ鮭の鰯ふ寄一鮭の形　成月
初鮭の元釣ふ人の汐ちう　羽爰
ふ鮭や柳の長元ふ　瓦村
初鮭や新ふ氏ふ寄　、
いろ一ひく人ふうる松　陳　演
小鰯元ふまれ道元ふ　原巻
ふまれ道元ふ　不雄

落船

小舟や雨の柴の戸に寄て聞る　三沼
海士が物とりそめていらつ川　見邪
きくたてゝ人の隠ひ処ゝ成　瓦村
小鶴のこゑ仏さもさ古墓市　稔弗
潮と言う潮と言う潮の鶴　涼花
潮の鶴や山さらさらと寄る　道女
ちらつかうと木の葉流れて鶴鳴ら　瓦村
おもい鶴や寄の芦を踏て　繁雄
潮の鶴や寄つゝもつて冬　共風
降一雨やいよいよ鶴の鶴　杉暁
寄鶴や言ふ一下に表　内誓

若葉

新しひ鶴ひ鶴ひ鶴に鶴ひ鶴ひ鶴　参雄
鶴ひ鶴やうらはしてもつて若葉　涼花
言鶴ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ　秋瓜
雨の日に新しひ出ひ若葉　見年

長月

四十六の月の月の月の月の月の月　月夕
四十五の月の月の月の月の月の月　一芭
月月や桂木の月の月の月の月　函雅
長月や鶴の月の月の月の月の月　苑外
月月月月の月の月の月の月の月　瓦村
月月月月の月の月の月の月の月　珠弓

九日小袖

長月や九日の宴に紅の　三沼
袖ふるし小雪降る九月哉　雅岱
袖の袖に重ねて有り　玉英
小路の袖合一九日の袖に重ね　扇柳
九日哉小袖着たる人都にも　珠弓
袖ふるくまるる九日小袖の路　蘭香
色九日の雪ふる九日小袖ふる　義遊
きぬ袖のあり小袖のふるに成　龍丈
時や九日小袖乃人通り　柳賀
九日哉小袖や花を見ぬ小　花外
ふるし九日哉小袖ふる　由碧

石雛

雛ちらす石の雛の風の後　風村
新酒や新酒や後の雛ちら　光年
ぬくくるる雛ちらす石の雛　樹石
面ちらす石の雛ちらす石の雛　清九
花の雛乃すまふ酒ちらす雛　言山
門先や雛乃雛ちらす雛　竜女
雛ちらす雛の袖やちらす雛　郎雄
雛ちらす雛や雛ちらす人の雛　杉晩
雛ちらす雛や雛ちらす本の雛　象雄
雛ちらす雛や雛ちらす雛ちら　龍女
雛ちらす雛の袖ちらす辻小袖　好一

菓

梅嫌

菓の事は古き人も書れたれども
其名のみ聞て能こゝろみたる人
なし 乙良
知の深山にありやきくの花 卜早
菓も書て嘗たるの菓なれ 龍友
菓の国にて蘭香の如く
なれ共其物や菓の花 一硯
見るものもそこなふて菓なる
志らゝ文 梅嫌 色外
そこなふる蟹のこゝろ 梅嫌 山歌
詩の賢にそこなふ梅よ 見村
なの事 梅嫌 岡西

銀杏

夕ゝや梅嫌ふる風さすつ 波鶴
移むらの庭ふる花を梅嫌 弓
梅ふる家を梅嫌 紙所
菓の前 梅嫌 以見
しめりきの小白髪を花の 曲翁
銀杏や枕にたゝる弾井 一芝
秋に宮しぐる銀杏 深巻
宮ちの酒代ふるの銀杏 明美
色くらのものや銀杏の 清光
きくるの日のき銀杏 杉暁
そのてらの菓に銀杏 功甫

芦穂

束柱

紅葉

萬

郵分

我が[illegible]日の[illegible]一[illegible]一坂
仰ぎ[illegible]の[illegible]来[illegible]れば 松曉
伐り[illegible]ま[illegible]の[illegible] 玉落
萬年[illegible]の[illegible]八[illegible]の[illegible]の[illegible] 松曉
萬の[illegible]や[illegible]坂[illegible]の[illegible] 抱叔
[illegible]と[illegible]八[illegible]の[illegible] 拙誠
[illegible]と[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 印南
白波や[illegible]一[illegible]に[illegible] 松竹
[illegible]ば[illegible]す[illegible]の[illegible]の[illegible] 樹石
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 翠遠
[illegible]れ[illegible]の[illegible]れ[illegible] 嘉明

霧雨

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 陸弓
[illegible]一[illegible]の[illegible]の[illegible] 知遠
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 直女
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 白起
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 閑雅
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 美遊
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 寄一
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 祖仰
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 栄吾
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 内誓

新綿

新綿十五ヲ以て先祖ノ
ヲ祭ル又新綿の石ヲ以
新ハ年毎に取る人乃数一袋
ヲ其ノ先祖に新ヲ捧ル事
弾つらぬ事也四寸五寸
色まち〻ニて風雨一度ニ子孫
実成ル事也一ツも不ル蒔椒
ヲ取ル世ノ人貞ヲ唐辛子一袋
唐辛子ヲ以て学問ノ新の色
葉ヲ見ル日に書ル成物ヲ蒔椒豊里
表所乃春合物ヲ煎ル事 解水

蕃椒

蕃椒

中世ハ蕃椒ヲ蕃薯ト把叔
蕃椒の俗名ヲ蒲萄ト一餘
名ヲ呼ぶ故ひとくに蒲萄ヲ地成
木ハ木ノ如ク花ノ蒲萄ト象雄
蕊ニ有ル事ヲ椒椒ト称之
時ヲ秋ノ中ノ日ニ又ノ三餘
色ハ赤ク而ノ味ノ椒椒ハ酸ク
枝ニ花ヲ幹ヲ不ラ成ル者椒椒
巻ノ色ヲ黄ニ刻面
皆ヲ新ヲ赤ヲ白ヲ黄ヲ黒ヲ
色ヲ成ル書ヲ仙合 ヨミ方 老里

後の月

淋しさ[illegible]後の月　丁知
[illegible]後の月　玄英
[illegible]後の月　杉暁
[illegible]明の[illegible]後の月　桂跡
[illegible]月　三四
後の月[illegible]　卜守
[illegible]後の月　田子
[illegible]月　亀友
後の月[illegible]木の[illegible]　月夕
酒[illegible]後の月　豊里
[illegible]後の月　松竹

司召

人[illegible]司召　秀此
[illegible]司召　秀挑
[illegible]司召　三沼
何[illegible]司召　言山
司[illegible]　由斗

升市

年[illegible]升市　涼芹
[illegible]升市の升　杏女
升市や[illegible]　真風

網代打

押[illegible]網代打　宝流
[illegible]網代打　清甫
[illegible]網代打　一錦

木賊刈

人よけと一本もちて伺や個代ぶ　花外
陶代新物よみ見えたる木賊刈　、
茅の家やかくれしや猶夕かな　家雄
真よ行くを見つけて刈木賊代　抱叔
一すぢ刈てあるゝ木賊の沢　石梯
木賊まで流れて岸も小田原　丸村
行く鐘の砂味去るや木賊刈　花外
簑うち干して刈る手拭ふ木賊代　、
されど宝て何よへ見て木賊刈　由哲

薬掘

濡て生る薮信かや茶摘　子英
薬掘つまれしを見る行けり　封甫

新蕎麦

麦のあとハましきれとすへし薬掘　抱叔
尋ぬ庵不常の草でし薬ほり　三四
ここぞ郷の花絶ぬや薬掘　拙誠
行道をうち絶りの阿まれ世生ゆ　月夕
薬掘や水をみてくれて人を得よ　以兄
新蕎麦や掛かの手ね里ある　指翁
よろぶ新しみえて饗れけり　豊里
新蕎麦の味をかく文な古き色　言山

尾越鴨

おりひろし銭すてさや尾越鴨　指翁
せめて来る夕は尾越鴨　花外
星てりして尾をこなし鴨の声　使耳丸

露時雨

冬待

行秋

神送

[illegible] 眉書
住吉の浦松ゆく神の[illegible] 二
来ては[illegible]く[illegible]や神送り 波鶴
川[illegible]や[illegible]ぬ[illegible]かく[illegible]り 涼花
神送り[illegible]の杉の朝ぬけ 珠弓
白[illegible]の[illegible]や神送り 三四
[illegible]の雷[illegible]や[illegible]り 春山
神[illegible]ぬ[illegible]む迄 由誓